



一年の計は元旦にあり…

今日は、2学期最後の日。終業式では、2学期を振り返ってみての話と、1月1日にぜひやってほしいことを話しました。「1月1日にやってほしいこと」については、内容を次に載せますので、ご家庭で、いっしょに取り組んでみてください。

－ 終業式で子ども達に話した話（一部抜粋） －

さて、もうすぐお正月ですね。1月1日のことを何というか知っていますか？ そうです。「元日」（かんじつ）といいます。他によく聞く言葉に「元旦」（がんたん）という言葉もありますが、この「元日」と「元旦」は同じでしょうか？ 答えは、近い意味ですが、全く同じではありません。「元日」とは、1月1日の朝早くからその日が終わる夜遅くまでの一日のことを言います。では、「元旦」は、何を表すのでしょうか。答えは、「旦」という字をよく見るとわかります。分かる人いますか？ 下の「一」は地平線や水平線を、上の「日」は太陽を表します。ということは、太陽が上がってくる時間、「午前中」を表します。つまり、「元旦」とは、1月1日の午前中のことを言います。

ところで、『一年の計は元旦にあり』という言葉を知っていますか？ これは、一年の計画は年の始めの元旦に立てるとよい。何事もまず始めに計画を立てることが大事である、という意味です。1年後にこんなことができるようになりたいという目標をもつことはとても大切なことです。皆さんも、まず元旦、1月1日の午前中に「今年は、〇〇を目標にするぞ」「□□を続けるぞ」などの計画を立ててみましょう。3学期になって、担任の先生や校長先生に出会ったときに教えてくださいね。せっかく目標を立ててもすぐに忘れてしまっては、意味がありませんので、忘れないように紙に書いて、良く見える場所に貼っておくのもいいですね。

さて、全てが順調にいったわけではありませんが、大きな事故もなく2学期の終業式を迎えることができました。1学期に引き続き、学校教育へのご理解とご協力に感謝いたします。ありがとうございました。令和5年もどうぞよろしくお願いいたします。それでは、よい年をお迎えください。

「ようこそ！ワクワクおもちゃ王国へ」～2年

12月14日（水）に、2年生が1年生を招待して自作おもちゃでいっしょに遊ぶ学習がありました。2年生が1年生を楽しませてあげようといっしょうけんめい考えて動く姿を見て、2年生の子ども達の成長を感じることができました。



間伐材を使って給食の食缶置きを作りました！～5年

12月20日（火）に、5年生が間伐材を使って給食の食缶を置く台を作りました。「間伐（かんばつ）」とは、樹木の生育を促すことを目的とした木々を間引く伐採（ばっさい）方法のことを言います。子ども達は、間伐材を活用することが、環境を守ることに繋がる話を聞き、実際に間伐材を使って製作に取り組みました。インパクトドライバでねじを打ち込んだり、ペンキを塗ったりしながらつくっていきました。準備から指導まで全面的に協力をいただいた龍王・山里・川の会の皆様ありがとうございました。



日	曜	1月の学校行事
1	日	元日
2	月	
3	火	
4	水	仕事始め
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	成人の日
10	火	始業式 学校安全の日 児童下校11:50
11	水	給食開始 4時間授業 冬休み図書返却 4~6年 児童下校13:30
12	木	冬休み図書返却 1~3年
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	図書館開館 オンライン英会話5年 PTA役員会18:30~
18	水	市ALT4年①②③ 委員会活動⑥
19	木	
20	金	命と安全の日 標準学力検査②国語③算数 代表委員会⑥
21	土	
22	日	
23	月	
24	火	オンライン英会話6年
25	水	市ALT3年①②③ 5年スチューデントシティ体験学習(5の2、5の3)
26	木	
27	金	二瀬中学校新入生入学説明会 6年⑤⑥
28	土	
29	日	
30	月	避難訓練(地震による火災)
31	火	オンライン英会話6年
【2月の主な行事予定】 3日(金)5年スチューデントシティ体験学習(5の1) 10日(金)児童会選挙 14日(火)新一年入学説明会 24日(金)学習参観、学年・学級懇談会		

■お知らせ■

ホームページ(HP)でも、様々な情報を発信していますので、ぜひご覧ください。



COFFEE BREAK ともに幸せに生きる社会に向けて

先日、3年生が総合的な学習「ともに生きる」で学んだことを伝える発表会があり、参観しました。これは、「障がいのある方」や「高齢者」等について、実際に体験したり、調べたりした内容をプレゼンにまとめ、発表したものです。堂々と発表する姿に子ども達の成長を感じました。「障がいのある人もない人も楽しく過ごせる社会にしたい」「高齢者にも色々な人がいます」「みんなを支える人になる」「自分たちができることは～」と真剣に話す姿を見て、みんなが幸せに暮らせる社会にするためにどうするのか、私たち大人も子どもに負けずに考えないといけないと感じました。